

## 臨床医学概論

[講義] 第2学年 前期 必修 1単位

《担当者名》教授 / 泉 剛

教授 / 柳川 芳毅

教授 / 町田 拓自

准教授 / 木村 治

准教授 / 水野 夏実

准教授 / 鹿内 浩樹

## 【概要】

疾患の発見、病態把握の基礎となる自覚症状や他覚症状の観察とその情報収集につとめる習慣はすべての医療分野において極めて重要である。本講では疾患に伴って現れる主要な症候について学修し、症状および徴候が出現する機序について学び、その背景となる疾患を理解する基礎知識を身につける。また、薬物治療を実践するに当たって、様々な疾患の病態やその背景並びに臨床経過を理解することは極めて重要である。

本講では、いくつかの代表的な疾患についてその病態・病因、並びに関連する病態生理学的な背景などについて学び、各論となる今後の薬物療法学で学修するための基礎となる知識を修得する。さらに、本講では重要な臨床検査の概要についても解説する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	症候学総論 臨床検査医学総論  脳・神経・筋の疾患	<p>症候学の必要性や重要性について概説できる。 臨床検査の基本的な考え方を説明できる。</p> <p>中枢神経疾患を概説できる。 脳および神経障害（視力障害、聴力障害、記憶障害、知覚障害（しびれを含む）、神経痛など）について説明できる。 神経および筋障害（めまい、頭痛、けいれん、運動麻痺、不随意運動、筋力低下、嚥下困難・意識障害・失神など）について説明できる。 関節痛、関節腫脹、腰背部痛について説明できる。 脳・神経・筋疾患の診断に関する臨床検査項目について説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1, 2)、D-2-2 1~4)、D-2-4 1~4)、D-2-5 1~4)、</p>	泉 剛
2	消化器系の疾患	<p>消化器系疾患を概説できる。 腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血について説明できる。 黄疸・肝腫、腹部膨満（腹水）について説明できる。 肝・胆・膵疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 消化器系疾患の診断並びに機能検査に必要な臨床検査項目について説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1, 2)、D-2-11 1~4)</p>	木村 治
3	呼吸器系の疾患	<p>呼吸器系疾患を概説できる。 呼吸困難、咳、痰、血痰、喀血、チアノーゼなどについて説明できる。 呼吸器系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1, 2)、D-2-12 1~4)</p>	鹿内 浩樹
4	循環器系の疾患	<p>循環器系疾患を概説できる。 高血圧、低血圧、ショックなどについて説明できる。 心悸亢進、動悸、胸痛などについて説明できる。 循環器系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。</p>	鹿内 浩樹

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1, 2)、D-2-8 1~4)	
5	腎および泌尿器系の疾患	腎および泌尿器系疾患を概説できる。 浮腫、脱水について説明できる。 血尿、蛋白尿、排尿などの尿路系および尿所見の異常について説明できる。 体液異常について説明できる。 尿検査、腎機能検査並びに体液に関する臨床検査項目について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1, 2)、D-2-13 1~4	水野 夏実
6	血液系の疾患	血液系疾患を概説できる。 貧血、出血傾向について説明できる。 赤血球系疾患および白血球系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 血液凝固・線溶系異常の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1, 2)、D-2-9 1~4)、	町田 拓自
7	内分泌系の疾患・代謝異常	内分泌疾患を概説できる。 代謝疾患を概説できる。 月経異常や不妊について説明できる。 肥満、やせ、全身倦怠感について説明できる。 内分泌・代謝異常の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1, 2)、D-2-6-1~4)、D-2-14 1~6)	水野 夏実
8	炎症・免疫・アレルギー系の疾患および感染症・悪性腫瘍(がん)	炎症・免疫・アレルギー系の疾患を概説できる。 感染症を概説できる。 悪性腫瘍(がん)を概説できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム D-1-2 1,2)、D-2-10, 15, 16)	柳川 芳毅

## 【授業実施形態】

## 面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

期末定期試験(筆記試験)(100%)により評価する。

## 【教科書】

「コンパス薬物治療学 改訂第2版」原 明義、小山 進 編(南江堂)

## 【参考書】

「知っておきたい臨床検査値」 第2版 日本薬学会編(東京化学同人)

「病気がみえる vol.1 消化器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.2 循環器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.4 呼吸器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.5 血液」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.7 脳・神経」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.8 腎・泌尿器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.10 産科」MEDIC MEDIA

- 「病気がみえる vol.11 運動器・整形外科」MEDIC MEDIA
- 「病気がみえる vol.12 眼科」MEDIC MEDIA
- 「病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科」MEDIC MEDIA
- 「病気がみえる vol.14 皮膚科」MEDIC MEDIA
- 「病気がみえる vol.15 小児科」MEDIC MEDIA

#### 【備考】

必要に応じて、補習講義を実施することがある。  
定期試験範囲には、当該補習講義の内容を含めることもあるので、出席すること。

#### 【学修の準備】

本講義は、後期並びに上級学年で開講される「薬物療法学 ~」を理解する上で必要な内容を多く含んでおり、学習範囲が多岐に及ぶため、疑問点を含めて講義内容のしっかりした理解に努めること。

- ・予習として、シラバスに記載されている次回の講義範囲について教科書やこれまでに使用した資料を読み、疑問点などをまとめておくこと(40分)。
- ・授業の内容の小テストを実施することがあるので、復習をしておくこと(50分)。
- ・授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと(50分)。
- ・復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに(50分)、日常においても専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと(20分)。

#### 【関連するモデル・コア・カリキュラム】

D-1 薬物の作用と生体の変化  
D-1-2 身体の病的变化 1, 2)

- D-2 薬物治療につながる薬理・病態
  - D-2-2 鎮痛作用を有する薬物
  - D-2-4 運動神経系や骨格筋に作用する薬
  - D-2-5 中枢神経系、精神系の疾患と治療薬
  - D-2-6 代謝系・内分泌系及び骨の疾患と治療薬
  - D-2-8 循環器系の疾患と治療薬
  - D-2-9 血液・造血器系の疾患と治療薬
  - D-2-10 免疫・炎症・アレルギー系の疾患と治療薬
  - D-2-11 消化器系の疾患と治療薬
  - D-2-12 呼吸器系の疾患と治療薬
  - D-2-13 泌尿器系の疾患と治療薬
  - D-2-14 生殖器系の疾患と治療薬
  - D-2-15 感染症と治療薬
  - D-2-16 悪性腫瘍(がん)と治療薬

#### 【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的参画し、地域および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

#### 【実務経験】

泉 剛(医師)、柳川 芳毅(製薬企業において創薬研究に従事)、町田 拓自(薬剤師)、木村 治(薬剤師)、水野 夏実(薬剤師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

#### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、薬剤師としての経験や製薬企業において創薬に携わった実務経験を活かし、医療場面で遭遇する可能性の高い臨床診断に関する知識を講義することで実践的な教育を行う。

#### 【その他】

この科目は主要授業科目に設定している